

< 20 - 14 >
2020年06月

先生各位

新規受託項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、弊社では先生方のご要望にお応えするため、下記検査項目について新規受託を開始することと致しましたので、ご案内申し上げます。

謹白

記

■新規受託項目:

C. ディフィシル抗原毒素

[項目コード: 4066]

■新規受託開始日:

2020年 7月 1日(水)受付分より

<ご案内>

- ・ 項目コードが新規登録となるため、電子カルテ・健診システム等をご利用の際は、お使いのメーカーのサポート窓口へ項目紐付けの依頼をご連絡ください。
- ・ 現行のEIA法による **C.ディフィシル毒素** [項目コード:1211] も引き続き受託いたします。

以上

※裏面をご覧ください。

●クロストリジオイデス・ディフィシル抗原毒素

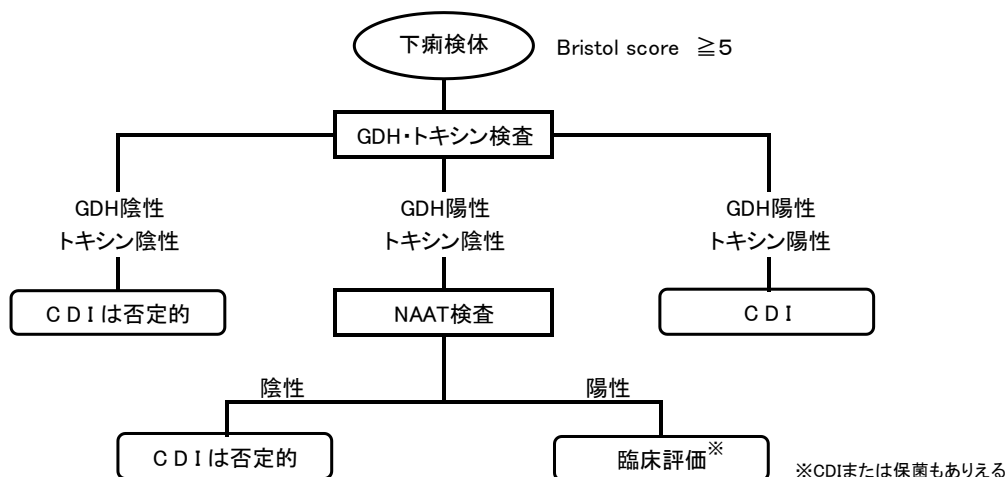
クロストリジオイデス・ディフィシル感染症（C. difficile 感染症：CDI）は、抗菌薬や抗がん剤の長期使用などにより腸内細菌叢のバランスが崩れると、C. difficile が異常増殖し、毒素を産生することで発症します。CDI は院内伝播もみられることから、感染対策上、早期診断と適切な早期治療が不可欠となります。

CDI を診断する方法として、培養検査、C. difficile の抗原（GDH）及びトキシン（毒素）を検出するイムノクロマト法や毒素の遺伝子検査法（NAAT法）があります。培養検査は日数を要しますが、イムノクロマト法は迅速検査で、短い日数でご報告可能です。しかしながら、GDHは高感度であるものの、トキシンの検出感度は十分ではないため日本化学療法学会・日本感染症学会ではGDHをスクリーニングに用いて二段階で判断する検査アルゴリズムを示しています。

■検査概要：

検査項目	C. ディフィシル抗原毒素
項目コード	4066
検査方法	免疫クロマト法
検体材料・検体量	糞便 1g
採取容器	採便容器 容器番号:29
保存	冷蔵
基準値	(-)
報告範囲	C.ディフィシル抗原(GDH):(-)、(+)、判定保留、判定不能 C.ディフィシル毒素(TOX):(-)、(+)、判定保留、判定不能
所要日数	2 ~ 6 日
実施料	80 点
判断料	144 点(免疫学的検査判断料)
備考	キャリブリア培地入り容器 容器番号:38 および 細菌検査用スワブ 容器番号:40 での検査は不可

●ご参考:C.difficile 検査のフローチャート



<通常診療におけるC.difficile検査の考え方(フローチャート)>

迅速診断キットでGDH・トキシン検査を行い、その結果に基づいてNAATを組み合わせるアルゴリズムである。一般的にGDHの感度はある程度高いことが知られており、GDH陽性・トキシン陽性はCDI、GDH陰性・トキシン陰性の場合CDIは否定的となる。一方、糞便検体におけるトキシン検査の感度は低いことから、GDH陽性・トキシン陰性の結果では、トキシン産生株と非産生株を区別することはできない。したがって、GDH陽性・トキシン陰性結果の検体を対象として、NAAT法を行うことにより、トキシン産生であれば病態とともにCDIを判断し、トキシン非産生であればCDIは否定的で抗C.difficile薬は不要であり、下痢として他の原因を考慮することとなる。